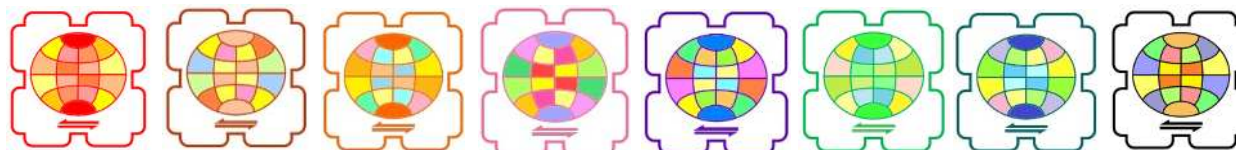
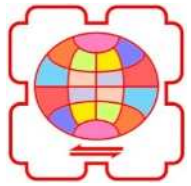


## 日本語学習環境の充実について

令和4年8月3日

令和4年度第2回岐阜市多文化共生推進会議資料





# 岐阜市の現状



## 外国人市民の日本語能力①

### ■ 外国人市民の意識調査

岐阜市多文化共生推進基本計画策定のため、岐阜大学教育学部との共同研究により外国人市民の意識調査を以下のとおり実施。

調査対象者	岐阜市に1年以上住んでいる20歳以上の外国人住民であって、在留資格が「特別永住者」でない人
調査票の配布・回収	郵送
調査基準日	平成30(2018)年10月1日
調査期間	平成30(2018)年12月1日～平成31(2019)年1月31日
配布数	1,550(宛名不明返送数:81)
回収数	328
回収率	22.3%

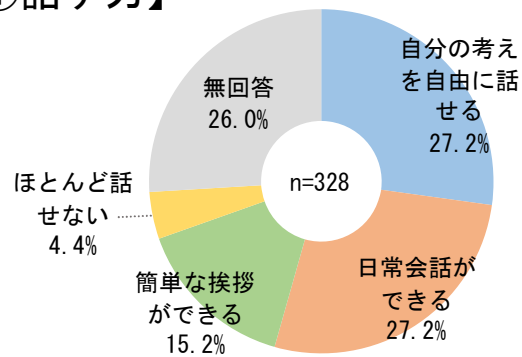


## 外国人市民の日本語能力②

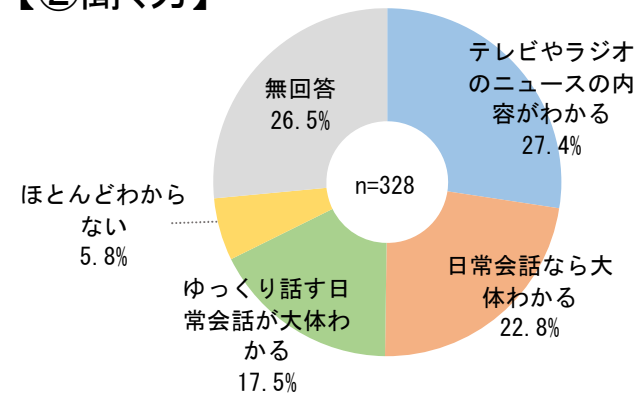
### ■ 外国人市民の意識調査

日本語能力に係る調査結果は以下のとおり

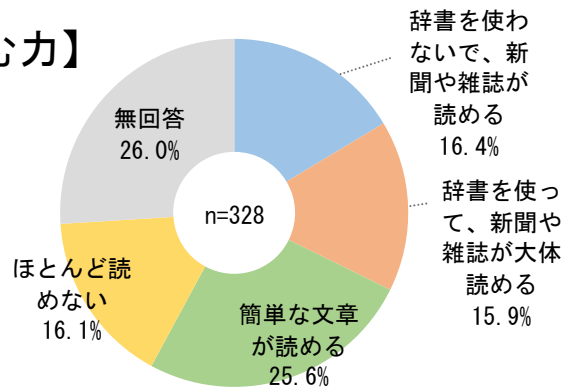
#### 【①話す力】



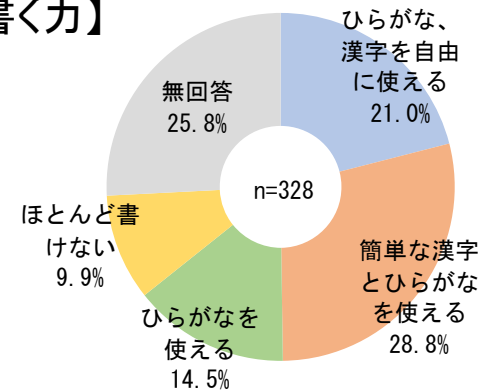
#### 【②聞く力】

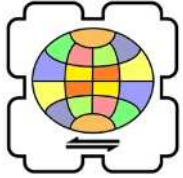


#### 【③読む力】



#### 【④書く力】





## 外国人市民の日本語能力③

### ■ 外国人市民の意識調査の分析

回答者が自身の日本語能力についてどう認識しているかを、①話す力②聞く力③読む力④書く力の4項目に分けて調査

- ・話す力では「自分の考えを自由に話せる」と「日常会話ができる」の合計が50%以上。
- ・聞く力では「テレビやラジオのニュースの内容がわかる」、「日常会話なら大体わかる」と「ゆっくり話す日常会話なら大体わかる」の合計が65%以上を占める。

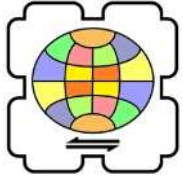
⇒話すことと聞くことについては比較的不自由を感じていない。

※ただし、「ほとんど話せない」は4.4%、聞く力で「ほとんどわからない」は5.8%

- ・読む力では「ほとんど読めない」が15%以上、書く力では「ほとんど書けない」が10%近く

→平易な表現であれば問題はないものの、日常生活において不自由を感じる場面が少なからずあることが想像できる。

- ・回収率が低かったため、「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」それぞれについて、不自由を感じる者はより多く存在する可能性がある。



## 日本語学習者の意見等①

### ■ 外国人市民意見反映事業

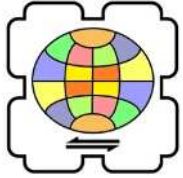
- ・外国人市民の意見がより市政に反映されるよう、外国人市民から意見聴取を実施
- ・令和3年度は2回実施し、第2回のテーマは「日本語学習について」
- ・事前アンケートを実施の上、会議方式での意見聴取を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、オンラインにて意見聴取を実施。

### 【実施年月日】

令和4年2月26日

### 【参加者】

- ・10名
- ・国籍は、アメリカ、インド、ウクライナ、中国、ネパール、バングラディッシュ、メキシコ
- ・(公財)岐阜市国際交流協会(以下「協会」という。)主催の講座・イベントに参加していたことがある者、市内の日本語学校やボランティアの日本語教室に通っている者、市内の大学への留学生等
- ・日本に住んでいる期間は、1年以内(1名)、3年以内(4名)、5年以内(2名)、5年より長期(1名)、未解答(2名)



## 日本語学習者の意見等②

### ■ 意見聴取の結果①

#### 【学習場所】

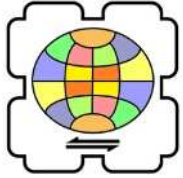
- ・大学の日本語学科
- ・日本語学校
- ・知人やボランティアに教えてもらった。
- ・オンラインで。
- ・日本国際協力センター
- ・自宅で一人で。

#### 【いつ勉強しているか】

- ・大学の講義
- ・仕事、学校が終わった後
- ・休日
- ・毎日
- ・意欲があるとき

#### 【岐阜市や協会への要望等(場所・時間等)】

- ・平日夜間や土曜祝日に教室を設けてほしい。
- ・日本語講座のレベルは細かく分けてほしい。
- ・仕事や学校が夜遅くなることも多いので、帰宅後にオンラインで勉強したい。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、出来れば対面で授業を受けたい。細かいところまで指摘してもらえらるから。
- ・日本語を学ぶ場所や交流する場が少ない。また、日本語が分からない状態で探すのは困難。



## 日本語学習者の意見等③

### ■ 意見聴取の結果②

#### 【日本語の何が難しいか】

- ・敬語
- ・漢字。意味は分かって、音読み訓読みが難しい。
- ・発音やイントネーション。違う意味で伝わってしまう。
- ・似ている言葉が多い。
- ・オノマトペ。「チクチク」、「ズキズキ」など。
- ・教科書で学ぶ日本語と、実際の会話で使う日本語が異なる。
- ・日本人は話すスピードが速く、言葉が難しい。ゆっくり、簡単な言葉で話してほしい。

#### 【岐阜市や協会への要望等(学習内容等)】

- ・コンビニでの会話等、場面ごとの定型的な会話を学んで気楽に使えるようになりたい。
- ・仕事やボランティア等、目的にあった実践的な日本語を学びたい。
- ・オノマトペやくだけた表現を勉強したい。
- ・話したり、聞いたりするだけでは、具体的なイメージがつかめないなので、実際に体験しながら、その場面の日本語を学びたい。ケーススタディの方が理解しやすい。
- ・会話の勉強も大事だが、N1試験のためには文法の勉強も欠かせない。
- ・手続の際の書類や説明書を理解するため、文法を押さえた上で、会話の練習をしたい。



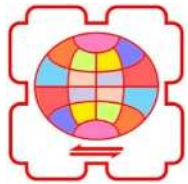


## 岐阜市の現状 まとめ

- 「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」それぞれについて、不自由と感じている外国人が一定数以上存在する。
- 学習したい内容や講座等の開催形式について、多様な要望がある。
- 日本語を学ぶ場が少なく、それを探すことが難しいとの意見がある。



これらの現状を踏まえ、日本語学習環境の充実に取組んでいく必要がある。



## 日本語学習環境充実に向けた取組



## 外国人のための日本語講座①

### 【概要】

#### ・協会主催事業

岐阜市から同事業へ補助金を交付(事業経費の3分の1。ただし24万円を上限)

・プロの日本語講師から、日常生活で必要となる基本的な日本語を習得するための講座。

・「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の総合的な力を身に付け、生活の基本的な場面で状況に応じたコミュニケーションができるようになることを目的としている。

・難易度別に3段階のクラスを設定。(前期:4~7月、後期:10~1月)

初級Ⅰ …全27回 受講料:12,000円

初級Ⅱ …全27回 受講料:12,000円

初級EX…全14回 受講料: 6,000円 (受講料のほか、テキスト代が必要)

→初級EXの修了で日本語能力検定N3・N4相当の日本語能力へ

※N3：日常的な場面で使われる日本語をある程度理解できる。

N4：基本的な日本語を理解することができる。

▶▶▶ 参考資料1 「外国人のための日本語講座」チラシ



## 外国人のための日本語講座②

### 【受講者数】

年度	H29	H30	R元	R2	R3	R4
受講者数	30	47	44	18	35	8

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため、前期は中止  
(令和2年度後期から、新型コロナウイルスの影響を踏まえ、オンラインでの実施あり)

※令和4年度は前期のみの実績

### 【課題】

- ・安価に、専門的な指導が受けられるにも関わらず、受講者が少ない。  
→講座は受講者のニーズを捉えているのか。改善を図っていく必要はないか。  
→「広報ぎふ」へ記事を掲載する等、周知を図っているが、情報が届いているのか。

### 【課題解決に向けた取組】

- ・実施主体である協会と協議し、講座の内容を検討していく。  
→使用するテキスト、開催日時、オンラインの導入等
- ・広報の手法、内容を検討し、より多くの外国人市民に周知  
→名古屋出入国在留管理局及び同局岐阜出張所に本講座案内の設置



## 外国人就労者向け日本語教室 「やさしい せいかつのにほんご」講座の開催

### 【概要】

- ・市町村と岐阜県との連携事業
- ・県の委託により、日本語学校から無償で講師を派遣。
- ・事業者(企業等)は会場を準備するとともに、受講生の交通費を負担する。
- ・市町村は参加する事業者の募集・県への申込等を担当

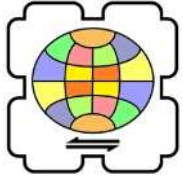
▶▶▶ 参考資料2 「やさしい せいかつ の にほんご」案内

### 【背景】

- ・外国人材の受入れに関する調査報告書(令和3年12月21日、外国人材受入れに関する専門部会)において、「アンケート結果を踏まえた本市の課題として、外国人材の受入れに当たっては、外国人労働者の「日本語能力」と、事業者と労働者間の「コミュニケーション」が課題」であるとの報告
- ・本年度第1回の推進会議においても、労働者向けの日本語学習支援の必要性についてご意見があった。

### 【状況】

- ・講座の開催に向け、関連する委員へのヒアリングを行うなど、調整中。  
実施を希望する企業等との調整後、県に申込みを行う。



## ボランティアと連携した学習機会の充実

### 【概要】

- ・各ボランティア団体において、外国人向けの日本語教室等を開催  
→無償、マンツーマン、グループ学習、オンライン、日本語能力試験対応等、実施内容は多様
- ・岐阜市の取組として、日本語教育人材の育成を図るため、ボランティア等を対象として「日本語の教え方講座」、及び、より実践的な「日本語学習サポーター勉強会」を開催

### 【課題】

- ・日本語学習者の様々なニーズに応えるため、多様な選択肢を設けることが必要
- ・各ボランティア団体間で連絡、連携する機会が少ない。

### 【取組】

- ・引き続き、「日本語の教え方講座」等を開催し、ボランティアの学習機会の充実を図るとともに、より実践的な勉強会により、ボランティアのステップアップを図る。
- ・協会に依頼し、ボランティア団体同士による会合の場を設け、ボランティア団体からの要望、岐阜市からの要望等を伝えるとともに、情報交換及び連携を図る。



## 日本語学習環境充実に向けた取組 まとめ

- 協会が主催する「外国人のための日本語講座」を本市の日本語学習の中核として、これを補助し、協会との連携によりその充実を図っていく。
- 県・国等の施策を活用し、外国人を雇用する事業者が果たす責任に留意しながら、日本語学習支援を進める。
- ボランティア団体との連携を強化し、多様な学習機会を「点」ではなく「面」で提供が可能となるよう、協議を進めていく。



- ・外国人市民が日常生活や社会生活を円滑に営み、その生活を充実させていくためには、日本人市民との日常的なコミュニケーションが必須である。
- ・そのツールとして「日本語」の習得は極めて重要な要素であり、その習得に向けて支援を充実させていく。